

期末レポートについて

レポート試験要領

- 論題
 - 授業で扱ったテーマの中で、あなたが特に興味を持ったものに対し、あなたの意見を述べてください。複数のテーマを総合的に扱ってもかまいません。参考資料を使った場合には、必ずそれを明示してください（著者名、書名、出版社、出版年、ページは必須）。また、授業全体に関する感想を短く述べてください（感想は規定の文字数に含みません）。
なお、インターネットからの剽窃（盗用）があった場合には、この科目の得点を零点としますので、ご注意ください。
- 字数：2000字程度



レポートの評価基準



1. 知的誠実さ

- 自分の考えを明確にするために、引用・参照を明示する。
- 引用・参照した場合、出典を文中または脚注に明示する。
 - 終末論も構造的暴力となる場合がある(テキスト、112-113頁)。
 - 小原はこれについて「〜」と語っている(小原克博『宗教のポリティクス』55頁)。

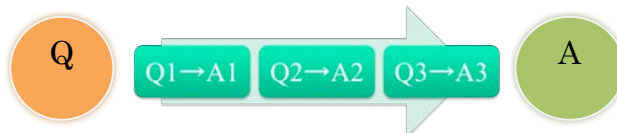
2. 授業内容との対応の的確さ

- どんなに独創的であっても、授業内容と無関係では「期末レポート」にならない。
- ユダヤ教、キリスト教、イスラームの相互関係を問う内容になっているかどうか。
- テーマを考える。テーマの的確性について自信がない場合には相談する。
- 参考文献を「正しく」用いる。



3. 内容の論理的ー貫性

- 「問い」と「答え」が意識されているか。
- 自分の「主張」が客観的に展開されているか。



現代世界における課題 (3)

犠牲の論理

自己犠牲の論理

— ナショナリズムと宗教 —

- (世俗的ナショナリズムと宗教は) 包括的な道德秩序の枠組み、すなわちそれに所属する人々に究極的な忠誠を命じる枠組みを与えるという、倫理的な機能を果たす。(中略) ナショナリズムと宗教がもつ、**殉教と暴力に道德的許可を与える力**ほどに、明確に忠誠の共通様式が現れているものは、他のどこにも存在しない。(ユルゲンスマイヤー『ナショナリズムの世俗性と宗教性』玉川大学出版部、1995年、28-29頁)

他者に犠牲を強いる論理

- 反ユダヤ主義
- イスラモフォビア (イスラーム嫌悪感情)

殉教のモデル

— 犠牲の正当化 —

カラヴァッジョ「イサクの犠牲」
(ウフィッツィ美術館)



原点としてのイサク奉獻

神が命じられた場所に着くと、アブラハムはそこに祭壇を築き、薪を並べ、息子イサクを縛って祭壇の薪の上に載せた。そしてアブラハムは、手を伸ばして刃物を取り、息子を屠ろうとした。

そのとき、天から主の御使いが、「アブラハム、アブラハム」と呼びかけた。彼が、「はい」と答えると、御使いは言った。「その子に手を下すな。何もしてはならない。あなたが神を畏れる者であることが、今、分かったからだ。あなたは、自分の独り子である息子すら、わたしにささげることを惜しまなかった。」(創世記 22:9-12)

マカバイ戦争（168年）における 七人兄弟の殉教とその母

それにしても、称賛されるべきはこの母親であり、記憶されるべき模範であった。わずか一日のうちに七人の息子が惨殺されるのを直視しながら、主に対する希望のゆえに、喜んでこれに耐えたのである。崇高な思いに満たされて、彼女は、息子たち一人一人に父祖たちの言葉で慰めを与え、女の心情を男の勇気で奮い立たせながら、彼らに言った。「わたしは、お前たちがどのようにしてわたしの胎に宿ったのか知らない。お前たちに霊と命を恵んだのでもなく、わたしがお前たち一人一人の肢体を組み合わせたのでもない。人の出生をつかさどり、あらゆるものに生命を与える世界の造り主は、憐れみをもって、霊と命を再びお前たちに与えてくださる。それは今ここで、お前たちが主の律法のためには、命をも惜しまないからだ。」（マカバイ記二 7:20-23）

イエスの十字架による罪の贖い

- 人間は自分自身の罪をあがなうことができない。
- 神がイエスを地上に遣わし、その命（身代金）と引き替えに人類の罪を許す、という贖いの理解が、西洋キリスト教では主流となっていった。

犠牲の何が問題か

1. 犠牲のパラドクス

- ある者（神）への忠実（自己犠牲）は、他の者（イサク）の犠牲をともしなう。
- ある者（国家）への責任が他者（他国民）への無責任となる。他者に死を与える絶対的犠牲のパラドクスは、戦争において極大化する。（高橋哲哉『国家と犠牲』日本放送出版協会、2005年、230頁）
- 【参考】絶対平和主義は有効か？
- 状況にかかわらず、この立場が買かれるとすれば、もっとも無責任な態度となる可能性がある。他者の安全を尊重するようでありながら、他者の具体的な呼びかけには応えようとしなからず。

2. 殉教と殉国

- 元来、殉教はマイノリティの信仰者に起こる。ところが、ある宗教がマジョリティになったり、あるいはマジョリティの側につくと、殉教の論理を殉国の論理に重ねてしまう。

3. 交換の論理

- 殉国も殉教も、命を差し出すことが、模範的な自己犠牲として称賛（顕彰）される。
- 靖国神社における英霊の顕彰、カトリックにおける殉教者の列聖。ここには「交換の論理」が働いている。

〔参考〕 イエスの倫理

- 交換の論理を批判。勸善懲惡の否定。
- 「あなたがたも聞いているとおり、『隣人を愛し、敵を憎め』と命じられている。しかし、わたしは言うておく。敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい。あなたがたの天の父の子となるためである。父は悪人にも善人にも太陽を昇らせ、正しい者にも正しくない者にも雨を降らせてくださるからである。」（マタイ5:43-45）
- cf. ぶどう園の労働者のたとえ（マタイ20:1-16）

〔参考〕 イエスの倫理

- 徹底した個人倫理
- 集団倫理を批判
- 殉教・殉国のない世界を暗示